

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800277		
法人名	社会福祉法人敬愛会		
事業所名	認知症対応型共同生活事業所	ユニット名	むつみ2号館
所在地	小林市野尻町三ヶ野山4336-74		
自己評価作成日	平成28年6月23日	評価結果市町村受理日	平成28年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&lievsovoCd=4571800277-00&prefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の特養施設が24時間看護体制を導入しており、夜間も看護師が常駐している事で入居者の急変時の速やかな対応が出来る。訪問看護サービス導入と他職種間との連携、ご家族の協力のもと、数名の入居者がグループホームでの終末期を迎えておられる。その中のお1人は「家に帰りたい」との望みがあれば、職員付き添いで外泊をかなえて差し上げる事が出来た。昔ながらのちまき作りやボランティアの方達によるアクティビティサポートの活用、地域の「茶のん場」にお連れすることで地域との交流を深めている。入居者のニーズに沿った外出や墓参り、買い物へご家族の協力を得ながら計画、実施している。ご家族参加のもと、収穫祭を計画し、一緒に調理をしたり、食事をともにすることで、入居者との絆を深めて頂くとともに職員との親睦を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人設立者の理念「一人ひとりの尊厳」をもとに、代表者が「地域とつながり、地域と共にある施設」として、法人主催の祭りやミニコンサート、ミニ絵画展などを開催し、また、地域の祭りや行事に積極的に参加している。職員も、利用者一人ひとりが生き生きと暮らせるように、「ふれあい活動計画」のもと、外出を支援したり、行事を計画するなど、一人ひとりが思い思いに参加できるよう支援している。終末期も多く経験しており、訪問看護利用や同敷地内法人施設の看護師との連携体制を整えている。また、重度化や終末期における家族への思いにも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	むつみ2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である。「人間尊重」を基に事業所の理念を作成し、職員間で共有するとともに日々のケアのに活かしている。又ホーム内に提示することで、ご家族や来場者に理解して頂けるようにしている。	法人グループの理念に沿い、ホーム独自の理念を作っているが、現状に沿った理念の見直しがなされないまま4年を経ている。管理者は、いかにして理念を職員間でもっと共有できるかも模索中である。	現状に即した独自の理念となるよう全職員で見直しを行い、理念に基づき、管理者と職員とで共有して実践に取り組むよう期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生き生きサロン・文化祭・施設主催外部からのコンサートへの参加・小中学生のサマースクール参加、ボランティアの受け入れを行い地域との繋がりを深められるように支援している。	法人グループと共に積極的に地域の行事に参加し、また、独自の行事を行うことで、地域の方がホームに来訪しやすいよう取り組んでいる。地域で、無くてはならない存在となるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉祭りでグループホームでの作品づくりの様子を提示して作品も展示、体験ツアー施設見学、入居者の様子や認知症について理解を深めて頂いている。	/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で民生委員・ボランティアグループ、ご家族等に対しケアの状況やまた利用者の生活の様子を報告しそこで出た意見をサービスの向上に生かしている。ホームページにも公開している。むつみ便りを作成して日々の生活の様子を報告している。	運営推進会議にて、ホームの問題や困難事例を積極的に開示し、意見を出してもらい、サービス向上に生かしている。参加者は多彩であるが、更なる地域の方の参加も模索している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、市担当課、地域包括支援センター職員に参加して頂きご利用者の生活状況諸活動、行事について報告を行っている。運営上の課題や運営や処遇について指導・助言を頂きサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議を通じて、また、市担当課に出向くなどして助言や意見をもらい、サービス向上につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室とフロアー、玄関には施錠は行わず開放的な環境の下で職員による行動の制約や束縛も無い、転倒や転落などの事後の危険のある利用者に対してはカンファレンス時にご家族へ報告と説明をして了承を頂きセンサーを設置している。	「一人ひとりの尊厳」をもとに、玄関、居室は施錠せずに、自由に過ごせるようにしている。利用者の苦痛にならないようなセンサーを設置するなど、利用者に配慮したケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底	職員会や施設内研修会で虐待についての理解と防止への教育を行っている。定期的に虐待についてのアンケートを実施報告の義務化に向けて指導行っている。	/		

自己	外部	項目	自己評価	むつみ2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については現在1名の方が利用しておられる。定期的に職場内の研修を実施、制度の理解に努めている。入居者の金品については適切に管理すると共に医療機関との連携を密にして身上の保全に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される時に契約書・重要事項説明書を基にサービスの内容や利用料金等具体的に説明し十分理解して頂いた上で契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも苦情や相談に対応できるようにカンファレンスや面会時に気になる事があれば相談できる環境作りに努めている。年2回の家族総会を実施し、家族の貴重な意見を頂いている。	家族満足度調査アンケートを実施したり、年2回の家族会の場で意見が出せるような雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に処遇会議を実施、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。法人全体の運営事項については、管理者が出席し意見を述べている。	職員は、普段の業務の中で、また、月1回の処遇会議にて現状の意見や提案をだしている。代表者が積極的に職員処遇について取り組み、管理者と話しながら前向きに話ができるような機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	就業規則、給与規定を整備して職員個々の努力や勤務実績により正規職員登用を図るなどキャリアパス構築に向けた取り組みを行っている。労働時間についても就業時間の適正化に取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設事業所での合同研修会の実施や外部研修についても積極的に取り組んでいる。新人職員に関してはカリキュラムに基づく新人研修、プリセプターシップを導入し入社一年間指導者の下で業務目標を設定し3ヶ月毎に評価を行い育成に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロック協議会に加入し、他施設と協議する機会や研修会を行うなどサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。町内のグループホーム連絡会(びっきょん会)にも参加しており、情報交換や研修会を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	むつみ2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	優しい言葉がけと笑顔で接し、施設や職員に対して違和感を持たれない様に努力している。利用者の観察をこまめに行い、表情や行動に変化がある時は傾聴に努め状況によってはご家族の面会を依頼し不安を取り除く様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅支援事業所と連携を密にし家族の疑問点、要望や不安に対して十分な説明を行っている。入所契約時にサービス内容や費用について分かりやすく説明を行っている。面会の時に様子を報告して家族との信頼関係を得られるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に最もふさわしい支援が出来るように配慮している。入居前の生活の状況や本人家族のニーズ把握し、暮らしの継続を視野においた計画を立案、支援に取り組んでいる。又職員間で認知症の中核症状や周辺行動を正しく理解し、安心安楽な生活の提供に努める。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食事の準備やおやつ作り、縫い物家事全般で出来る事は一緒にレク活動やお茶を飲んだり一緒に楽しんでいる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花まつり、納涼大会、敬老会、誕生会等への参加を呼びかけ楽しみを共有している。外出や外泊時はご家族の協力を得て、家族との絆を深めて頂けるよう支援している。面会時は生活の様子を説明し、居室で利用者本人と家族だけの時間を作る様に配慮している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別年間計画ふれあい活動計画を基に自宅訪問や外泊・墓参り・外食・買い物を実施、又茶のんばへお連れして馴染みの方々と面会デイサービス・特養利用者で付き合いのあった方との面会にお連れしている。	一人ひとりが生き生きと生活をし、一人ひとりの地域とのつながりが途切れないよう、「ふれあい活動計画」を作成し、なじみの人、場を絶やさないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルでお茶を飲まれたり、ソファでテレビや音楽を視聴されたりお互いに頼り合う関係づくりが出来ている方もおられる。洗濯ものたたみも利用者同士と一緒に出来るように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	むつみ2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院された場合や併設特養へ移動された方へも面会に出向き本人様との関わりを持つようにしている。移動された方が永眠された時はお別れにお通夜・告別式にも参列している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにおいて家族と利用者の希望要望をお聞きし日常の会話やケアの中で、本人の希望や思いに気づき過去歴、生活歴に沿った墓参りや自宅訪問など外出の機会を持つように取り組んでいる。		「一人ひとりが尊厳を持って暮らせる」をもとに、日々の会話から、利用者、家族の思いや希望を聞きやすい雰囲気づくりに努めている。各利用者の24時間シートの作成を検討しており、さらに思いや意向の把握ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具や趣味の置物、テレビなどの持ち込みを勧めたり、ご本人の若い頃の写真や家族写真を飾り、その人らしい居室作りを努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活をご家族や兄弟へ面会時にお聞きしたりアセスメントすることでその方を理解して個性に応じた生活の継続の実施に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはご家族と本人は毎回参加され6ヶ月の見直しには看護師栄養士も参加グループホームの生活の中で何を望んでおられるか把握に努め、個別のニーズに即した個別援助計画を作成している。遠方の方に関しては、電話で意見をお聞きして確認後書類を送っている。		3か月に1回、計画の見直しを行っており、利用者、家族を含め関係者全員が参加している。「一人ひとりが尊厳を持って暮らせる」をもとに、本人の状態や家族の要望などを聞き取り、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状態、食事、排泄、入浴等の基本的な項目とプランに基づくケアの実施状況を記録し毎月生活のお知らせとしてご家族へ郵送し状況の提供を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズに応じての自宅訪問や本人、家族と職員を交えての夕食、外泊、栽培作物の見学などを実施している。			

宮崎県小林市野尻町 グループホームむつみ(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	むつみ2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の保育園、小中学校の訪問、アクティビティボランティアによる、三味線演奏、コンサート、参加や生け花、ちまき作り等地域やデイサービス利用者等の協力を頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向を確認してかかりつけ医におつれし、専門医の受診を行っている。現在ターミナルケアの方もおられ週1回の往診と訪問看護師の協力を得ている。	かかりつけ医との関係が途切れないよう、往診と受診で継続して支援している。職員が、利用者と家族の意向をかかりつけ医の受診時に伝えられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態については毎日併設の特養の看護師へ報告、必要があればかかりつけ医の指導による医療的処置や看護を行っている。夜間の急変時は併設する特養の看護師による緊急対応を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に出向き声かけ励ますと併に病院での状態を把握し退院の許可が出た時には速やかに対応している。退院後の介護、看護に関しては退院時に病院での調整会議に参加して情報を収集している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては家族へのアンケートで意向を確認している。ターミナル期に入った時点で再度説明し、ご家族の意向をお聞きしている。病状については直接家族がお聞き出来るように配慮している。現在お一人終末ケアの方がおられる。随時家族、主治医、訪問看護師との連携を図りながらケアに当たっている。	利用契約時に重度化や終末期ケアの指針について説明をし、同意を得ている。重度化した時点で再度確認をして、終末期に向けての支援を行っている。終末期の対応や看取りの実績も数例あり、訪問看護や同敷地内の法人グループ施設の看護師が支援できる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対策マニュアルを作成しており併設している。特養や居宅部門での研修会で知識の習得に努めた。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する特養、地域住民参加による合同防災訓練を年に2回実施している。	法人施設全体の総合防災訓練を、地域住民、消防の協力を得て実施しているが、地震災害を想定した独自の訓練について、避難体制、避難経路、協力体制について検討中である。	災害時の体制、避難経路を見直し、隣接する中学校や地元消防団の協力などを得て、更に地域の協力体制を充実するよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	むつみ2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人お一人に尊厳の気持ちを持ち接するよう心がけている。個人情報に関する記録物は他者の目の届かない所に保管している。		「一人ひとりが尊厳を持って暮らせる」をもとに、職員は、一人ひとりのプライバシーが保てるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人の性格を把握しながらコミュニケーションを図り常に寄り添ったケアを心がけ信頼関係を築き、心を開いて下さるように努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間、食事、入浴排泄等入居者個々の生活リズムや行動パターンを把握し入居者の希望や要望を確認した上で援助している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理髪店に本人様の希望に応じて散髪をしている。美容師に散髪してもらっている方もいる。敬老会やお誕生日、母の日等の利用者の方に行事の際は、口紅など薄化粧もして差し上げている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を収穫して梅シロップ・ふき味噌・等食事の一品として提供している。おかずの盛り付けや皮むき・選別・下ごしらえ等して頂いている。季節行事やお誕生日などはその方のお好きな物をお聞きして提供している。		季節のおやつ作りや料理の下ごしらえ、味見など、利用者一人ひとりができる範囲で取り組めるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する特養の栄養士の栄養管理を実施、食事摂取量の低下された方など栄養補助食品やご家族の協力を頂きご家族の手料理を持ち込んで頂くなど水分補給については季節に応じてレモン水や黒砂糖茶・コーヒー・ココア・紅茶等を飲んで頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月一回、市内の歯科医に来て頂き歯科検診受け適切な口腔ケアについて指導を頂き、ケアをおこなっている。毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	むつみ2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべくトイレ誘導を行いトイレでの排泄に努めている。季節に応じて夏場はリハパンツから布パンツで過ごして頂き快適に過ごして頂く様に支援している。又オムツ使用者については排泄パターンを把握し随時に対応している。	利用者一人ひとりの習慣や排せつパターンなどを把握し、排せつチェック表も利用して、トイレでの排せつができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず水分の工夫(きなこ牛乳・腹部マッサージ等)運動、個々に応じた予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している。お一人お一人の希望される時間での入浴は実施出来ない。夏場は日・水を除きシャワー浴を実施している。浴槽に入れられない方はポンチョを使用して保温に努め温まって頂いている。	利用者一人ひとりの体調や気分に合わせて、時間や日程を調整しながら支援している。また、気分が変わるよう入浴剤を使うなどして、入浴が楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の一人一人の状態や体調に応じてお部屋で休んで頂いている。夜間の照明もその方に応じて明かりの調整を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止に努め配薬職員以外の二人で確認を行い服薬前も利用者へ声かけをして確認を取り誤薬防止に努めている。下剤の服用も排泄状況を確認しながら調節をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が出来る範囲での洗濯物たたみやお膳拭き自室の清掃、小鉢の盛り付けなどして頂いている。季節の保存食づくり梅干し・ちまきづくり・ゆべし等教えを頂きながら一緒に作っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人お一人の希望をお聞きして外食や買い物のお宅訪問・家族水入らずの外泊等ご家族のご協力を得ながらお連れし喜んでおられる。季節の花見散策へも体調やその時の天候に応じてお連れしている。	利用者からの希望や「ふれあい活動計画」に基づき、家族の協力を得ながら外出ができるよう支援している。同敷地内法人の施設の雑貨コーナーや喫茶店へ出向いたり、周辺を散策するなどの外出支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	むつみ2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いについて自己管理が出来る方には所持して頂いている。多額のお金に関しては事務所で管理している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の要望に沿って支援している。家族からの贈り物があった時は直接電話でお話して頂いている。携帯電話を所持しておられる方もおられる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全部屋が南向きに面しておりホーム内は明るく毎日次亜鉛素酸の拭き上げを行い清潔を保つようにしている。スタッフが自宅で栽培した生花を持ちより利用者に季節を感じて頂く様にしている。	共用空間には、季節を感じる事ができるように、利用者の作品や季節の作り物を展示している。畳とテーブル、ソファート、一人ひとりが思い思いに過ごすことができるよう工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設け利用者同士が団らん出来るような環境を作っている。家族持ち込みのソファで落ち着いて読書を楽しんで過ごされる利用者も居られる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に自宅で使って居られた家具や電化製品・寝具など持ち込んで頂く様にお願ひ心地よい、空間の中で生活できるように支援している。	使い慣れた家具や思い出の写真・家族の写真を置いたり、利用者の趣味の作品を飾ったりすることで、居室が利用者一人ひとりの落ち着いた空間となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口へご家族へも許可を頂き表札や目印の物をかけて自分のお部屋だと分る工夫や居室内にはご家族の写真や季節に応じた設営を行っている。			